

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価と今後の課題と改善策
1 授業の規律を確立し、授業改善を進めて、基礎・基本の定着を図る。	① 教材や指導方法を工夫し、わかりやすい丁寧な授業を実施する。	教務課 各教科	授業改善に取り組み、授業の内容が理解できる生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	(前期・後期末の2回調査) 前期 生徒授業評価の結果、「授業の目標や学習内容が理解できている」は80%であり、前年度よりUPした。「分かりやすい授業を心がけていると思う」や「説明が分かりやすいと思う」割合に近づけることが必要である。後期は、考える時間や発言の機会を増やし、積極的に授業に取り組むよう指導し、学習内容の理解に結びつけたい。 評価 B
	② 考査期間中及び長期休業期間中に、成績不振者や欠席がちな生徒に学力補充を行い、基礎学力の定着に資する。	教務課 各教科	学力補充に参加した生徒の割合が、 A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	(1月末に調査) 前期中間考査では、予定者延べ35名全員が参加した。前期期末考査では、予定者延べ51名、長期欠席者を除いて、全年で99%の参加率となった。(前期累計99%) 今後も丁寧な指導で基礎学力の定着に向けて継続していきたい。 評価 A
2 キャリア教育を推進し、個々の進路実現を目指す。	① 本校教育振興会員と学校の繋がりを強め、就職・アルバイトの支援を依頼する。	総務課	教育振興会会員への連絡が A 年間5回以上である B 年間4回である C 年間3回である D 年間2回以下である	(年度末に調査) ・総会案内、会費納入のお願いやそのお礼で3回連絡を取った。 ・新規会員募集のため企業まわりを行い2社から会費をいただいた。また、就職・アルバイトの依頼を行った。 ・年度末に校内の活動をお知らせするため学校だより等を送付したい。
	② 就業やインターンシップ等の体験を通して、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	進路課 各担任	就業体験や進路講話を通して、意識・能力が高まったと感じた生徒の割合が A 80%以上である B 65%以上である C 50%以上である D 50%未満である	(9月末、1月末に調査) ・進路講話(本校卒業生)を通して、意識が高まったと感じた生徒の割合が感想文から判断して67%であった。 評価 B ・インターンシップは(未就業者のなかに)希望者がなくて今年度は未実施であった。 ・就業体験を通しての調査は1月末に実施する予定である。 ・進路選択に関して自分に自信が持てない生徒が少なからずいる。その生徒らの意識・能力を高めることが、今後の課題である。進路講話のテーマや講師は、定時制の生徒にあったものを選び就業の相談にのって体験を多くしたい。

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価と今後の課題と改善策
3 学校生活全般を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。	① 生徒会活動の活性化を通して、生徒間及び生徒・教員間の意思疎通の向上をはかる。	生徒指導課 (生徒会顧問)	生徒会役員から生徒へのはたらきかけが、 A 毎月2回以上行われた。 B 毎月1回以上行われた。 C 年間6回以上行われた。 D 年間5回以下行われた。	(年度末に調査) あいさつ運動、自動販売機ドリンクアンケート、生徒会意見箱、インターハイ応援のぼり旗制作、保健室利用法協議など、その時々 の課題に応じて、生徒会から生徒へのはたらきかけが行われ、意思 疎通がすすんだ。後期には学校祭や球技大会に際して顧問とも密接 に連携し、さらなる意思疎通の向上をはかりたい。
	② 教員自身の生徒理解能力とコミュニケーション能力を向上させ、生徒指導の円滑化をはかる。	生徒指導課	対生徒コミュニケーション関連の校内研修を A 年間20回以上開催した。 B 年間12回以上開催した。 C 年間9回以上開催した。 D 年間8回以下開催した。	(年度末に調査) 前期にはストレスマネジメント教育関連や自殺予防教育関連、及び授業における生徒の反応の促し方を中心とする授業研究など、生徒理解のための校内研修を6回実施した。 後期には、生徒とのコミュニケーション能力向上のための研修を、質・量ともに強化していく必要がある。
4 基本的な生活習慣の確立に努め、心身の健康保持・増進を図る。	① 欠席・遅刻・早退を減らすために、生徒・保護者へのはたらきかけや、雇用主への協力依頼を工夫・徹底する。	生徒指導課 各担任	前年度に比べて意識的に欠席・遅刻等を減らすことができた生徒の割合が A 95%以上である。 B 85%以上95%未満である。 C 75%以上85%未満である。 D 75%未満である	(9月末、1月末に調査) 前年度に比べて意識的に欠席・遅刻等を減らすことができた生徒の割合は75%にとどまった。また、新入生・転編入生を除いた欠席・遅刻の総数は昨年度よりも増加しており、一層きめ細かいはたらきかけの工夫が求められる。 評価 C
	② ストレスマネジメント教育の充実をはかり、ストレスへの対処能力の向上をめざす。	保健厚生課 教務課 各担任	「学校へ行きたくないと思うことが少なくなった」と答える生徒の割合が、 A 80%以上である B 60%以上80%未満である C 40%以上60%未満である D 40%未満である	(9月末、1月末に調査) 調査の結果、「以前に比べ学校へ行きたくないと思うことが少なくなった」と答えた生徒の割合は60%であった。前年度は、「学校へ行きたくないと思うことが多かった」と答えた生徒が、年間を通して約60%だったので、やや改善傾向にあるといえる。 年度後半の本格的なストレスマネジメント教育により、さらにこのような生徒を減らしていきたい。 評価 B